

あたらしくはいった本 (令和元年8月 貸出開始資料から)

●小説 下北沢インディーズ(岡崎琢磨/著) 極限の婚約者たち(新堂冬樹/著) 格闘(高樹のぶ子/著) 氷獄(海堂尊/著) 夏の騎士(百田尚樹/著) 戦国の教科書(天野純希/著ほか) 営繕かるかや怪異譚 その2(小野不由美/著) 決断の刻(堂場瞬一/著) 小説天気の子(新海誠/著) 越境(東山彰良/著) モンスーン(ピョンヘヨン/著) 絶声(下村敦史/著) 君が異端だった頃(島田雅彦/著) 烈風ただなか(あさのあつこ/著)

●随筆・詩などの文学 ひぐらし先生、俳句おしえてください。(堀本裕樹/著) のつけから失礼します(三浦しをん/著) 「カッコいい」とは何か(平野啓一郎/著) もう少し浄瑠璃を読もう(橋本治/著)

●その他の本 まなの本棚(芦田愛菜/著) ひとり老後、賢く楽しむ(岸本葉子/著) 「差別はいけない」とみんないうけれど。(綿野恵太/著) 世界を変えた60人の偉人たち(東京電機大学/編) 長息長生き丹田呼吸法で読む名作(齋藤孝/著)



『下北沢インディーズ』
岡崎琢磨/著
実業之日本社



『まなの本棚』
芦田愛菜/著
小学館



『長息長生き丹田呼吸法
で読む名作』
齋藤孝/著
岩崎書店

みんなの としょかん



市民図書館
TEL (921) 4646
FAX (921) 4896
<http://www.library.dazaifu.fukuoka.jp/>

としょかんカレンダー

令和元年	日	月	火	水	木	金	土
10	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31		

○のついた日は休館日

金・土曜日(祝日を除く)は午後7時まで開館しています。

校舎の再利用——明治〜大正時代の場合

平成26年4月にオープンした太宰府市公文書館は、元は大学のキャンパスだった施設の一部を再利用して置かれた施設です。現在、例えば廃校により生じた空き校舎をどうするかなど、遊休施設の活用は地域の主要な課題の一つに挙げられますが、公文書館の設置は、施設の有効的な活用の一例と言えるでしょう。このように、校舎などの建物を再利用する、という発想は今に限らず昔からあったことですが、現在の余剰対策とは少し事情が違ったようです。



～公文書館だより⑥～

したが、水城村は交渉委員を立てて二日市町から御笠北の校舎を買い(1251円)、代わりに元の水城尋常小学校の校舎を二日市町と大野村に売る(1494円)ことで落着いています。高等小学校の設置に向けてどの町村も校舎は必要だったことから、取り引きは円滑に行われたことと思われまます。

太宰府では大正2(1913)年、尋常小学校に高等小学校を併設することになります。これは、大野村外7か町村(水城・太宰府・御笠・山家・筑紫・山口・二日市)学校組合により明治33(1900)年に建てられた御笠北高等小学校(観世音寺来木)を解体し、それぞれの町村の負担で高等小学校を持つことになったためでした(当時、尋常小学校は6年制で義務教育とされ、高等小学校にはその卒業者が進学)。その際、御笠北高等小学校の土地と建物を組合から水城村が買い取り、別の場所(坂本石橋)にあった尋常小学校を御笠北校跡地に移転して、水城尋常高等小学校が置かれます。

大正2年の水城村会議事録によると、御笠北高等小学校の校舎の一部はすでに二日市町が買い取ってしま

ところで、御笠北高等小学校は、明治19(1886)年に二日市に置かれた御笠高等小学校が、北と南(針摺)に分かれてできた学校でした。御笠高等小が設置された当時にさかのぼってみますと、その校舎はもともと18年まであった御笠中学のもので、校舎や備品を転用して開校しました。御笠中学のルーツは、同13年に戒壇院内にできた、六畳二間の県立甘木中学・思川分校です。同15年には町村立の思川中学となり、翌年には木造2階建て

56坪の校舎を新築して二日市に移転し、御笠中学となります(『筑紫野市史』)。大学進学への一階梯でもあった中学校は、地域の「まさに最高学府」でしたが(『甘木市史』)、財政的にも維持が難しくなり2年後に廃止、地域はまず初等教育の充実に力を注ぐこととなります。

太宰府市公文書館 藤田 理子